

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	群馬県民の文化と生活	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A01001	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石川良樹	そ の 他			
担当教員	桜岡正信、町田悟、高橋洋一、熊倉浩靖、田中修				
授業の概要	本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で生まれ・継承されてきた文化の特徴を学習する。この過程を通し、地域の特徴がその地域生活様式や文化にどのように影響するかを理解し、人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で生まれ・継承されてきた文化の特徴と人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 埋蔵文化財の特徴を通して、群馬県の歴史と文化を講義する。</li> <li>2. 群馬県の自然の特色とその風土に育まれてきた産業の特色について講義する。</li> <li>3. 心の文学である俳句の世界を通して捉えた群馬県民の文化と生活について講義する。</li> <li>4. 県名の由来や上毛かるたの内実等、知っていてほしい事について改めて講義する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	4/13 《オリエンテーション》 ・本科目のねらいとは 《特別講義》 ・60分でわかる「現在の群馬」	講義	・毎回、学習課題を提示。	石川 田中
	2	4/20 《旧石器時代人の行動》 ・旧石器時代研究の端緒となった岩宿遺跡の発見以降、多くの旧石器時代遺跡の調査を通して、群馬県の黎明期がどのように明らかになってきたのかを考える。			桜岡
	3	5/2 《縄文土器と土偶に秘められた縄文人のこころ》 ・ダイナミックな文様で飾られた縄文土器や不思議な造形の土偶から、縄文人の心について考える。			
	4	5/11 《東国の雄、古墳時代の群馬》 ・東国最大・最多の古墳が築造された群馬県の歴史的背景を、金井東裏遺跡などの発掘調査事例から考える。			
	5	5/18 《関東の華『前橋城』》 ・現在の県庁は、かつて『関東の華』と呼ばれた前橋城の跡にある。この群馬を代表する城郭の歴史をたどりながら、前橋の成り立ちについて考える。			
	6	5/25 《群馬県の自然環境と生活》 ・群馬県の生活・産業・文化の基になっている自然環境について、高地から低地まで変化に富む地形と、冬季の豪雪地帯と乾燥地帯、夏季の高冷地と高温地など多様性に富む気候について概観する。			
	7	6/1 《群馬県の農業の変遷》 ・近世から近代・現代に至る農業生産の変遷を養蚕業を中心に考察する。また、養蚕技術の改良に努めた人物について考える。			
	8	6/8 《群馬県の商工業の発展》 ・近世から現代に至る工業生産の発展を製糸業、絹織物業を中心に考察する。あわせて製糸業が日本の近代化に果たした役割について考える。			

授業の内容と方法	9	6/15 《経済社会構造の変化と群馬県の産業の現況》 ・養蚕県から野菜・畜産県に変化した農業、繊維工業から機械工業中心に変化した工業について、日本経済の停滞の中で抱えている問題を含めて考察する。また蚕糸業、絹産業の未来について考える。			
	10	6/22 《日々の生活の中で俳句の果たす役割》 ・生活の中から詠まれた作品を紹介し、その背景を考察する。 ・清水寥人著「上州讃歌」より季節別に22句抄出。 ・日本看護協会編「看護実感十七文字」より季節別に20句抄出。 ・黛まどか著「B面の夏」より季節別に20句抄出。			
	11	6/29 《郷土の俳人とその作品》 ・群馬県の生んだ著名な俳人の作品紹介と鑑賞 ・村上鬼城、上村占魚、村越化石の代表句を各20句抄出し、句の詠まれた背景と各俳人の指向等を考察する。			
	12	7/6 《俳句の実作と課題》 ・実作を通して俳句文学の本質を知る。 ・初日に俳句の基本を学び、その理解度を知るために1人2句ずつ詠み全作品を鑑賞し5段階に評価する。			
	13	7/13 《目から鱗の群馬県理解（講義+WS形式）》 ・群馬県の歴史・地名を健康科学の視点を交えて講義し、「温泉+食文化+α」で群馬をPRするアイデアを課題（グループ単位）として提供。			
	14	7/20 《目から鱗の群馬県理解（WS形式）》 ・課題に対するアイデア検討（グループ単位）。			
	15	7/27 《目から鱗の群馬県理解（WS形式）》 ・アイデア発表（評価はグループ単位）。			
評価方法	レポート・提出課題による各教員の評価の平均				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	『「上毛かるた」で見つける群馬のすがた』群馬県 『「上毛かるた」ゆかりの地 文化めぐり』群馬県 『群馬県謎解き散歩』新人物文庫				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	否
授業科目名	芸術 I (音響芸術)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A01002	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石原理恵	そ の 他			
担当教員	石原理恵				
授業の概要	芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、すぐれた音楽芸術の鑑賞を通して音響芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また、芸術を通して自己の精神的・身体的活動を表現する価値を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：クラシック音楽や世界の様々な音楽を鑑賞し、それらについての基礎的な知識を身につけることで、心の豊かさゆとりの実感できる生活が送れることを目指す。また、演習を通して、表現やコミュニケーションについても体験的に学習する。</p> <p>目標：1. 鑑賞を通して、日常的に楽しめる音楽の選択肢を増やす。 2. 曲の背景や作曲家について学ぶことで、音楽作品についての理解を深める。 3. 演習を通して、音楽表現やコミュニケーションについて体験的に学習する。 4. 日常生活に音楽を活かすことで、心豊かな生活を送る方法を習得する。 5. 医療者としての基礎教養を深める</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	私の音楽歴： ・講義の位置づけと目的や目標について理解する ・グループワークで「私と音楽」について討議。	講義 ・ 演習	<p>&lt;事前学習&gt; 提示された作曲家や時代背景等について予習する。</p> <p>&lt;事後学習&gt; 講義終了後、課題を提示する。</p> <p>事前学習については、授業終了毎のミニレポートに学習内容を記載する。事後学習としては、学習内容をレポートにまとめ提出する。</p>	石原
	2	中世・ルネッサンス： 世俗音楽や宗教音楽の中から鑑賞し、学習する			
	3	バロック： 主にヴィヴァルディ、ヘンデルの作品を鑑賞し、学習する			
	4	バロック： バッハの作品を鑑賞し、学習する			
	5	古典派： 主にモーツァルトの作品を鑑賞し、学習する			
	6	死と音楽：主にモーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムを鑑賞し、学習する			
	7	ロマン派： ショパン、シューマンのピアノ曲を中心に鑑賞し学習する			
	8	ロマン派：声楽曲 歌曲、オペラの有名な作品の中から鑑賞し、学習する			
	9	演習①： 小グループでベルの演奏、又は合唱曲に取り組む。 ・グループ形成の後、伴奏者、指揮者、リーダー等役割分担と課題曲を決定。 ・発声法を学習する。			
	10	演習② 練習開始：各グループでの取り組み			
	11	演習③ 練習			
	12	演習④ 練習			
	13	演習⑤ まとめ			
	14	演習⑥ 発表：グループごとに演奏を発表する			
15	音楽療法：音楽療法とは何か、どのように行われているのかを知り、ストレスマネジメントとしての活用法を学習する				
評価方法	レポート及び期末レポート (60%)、演習 (30%)、出席時のミニレポート (10%)				
教科書	「歌の宝石箱」ドレミ出版				
参考書 参考文献等	講義の中で随時提示、紹介する。また、必要に応じ適宜、楽譜、レジュメや資料を使用する。				
備 考	ひとクラスを受講者は、20人までとする。履修希望者が定員を超えたときは、抽選により履修者を決定する。				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術Ⅱ (造形芸術)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A01003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	寺澤徹	そ の 他			
担当教員	寺澤徹				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、造形芸術の鑑賞を通して造形芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また造形芸術の作成プロセスを体験し、自己の精神的活動を豊かに表現する価値を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>・イメージを知覚して作り出す仕方 (アトリテラシー) を実技演習の形式で学びます。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1 ～ 4	<p>[アートコミュニケーション] *人と人を繋ぐ造形を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道ゲームによるアトリテラシー</li> <li>・コミュニケーションカード (言葉から絵、絵から言葉への変換)</li> <li>・ペーパータワーによる協同表現 (役割、貢献、評価)</li> <li>・ペーパーカットコンテスト (行為と形)</li> </ul>	講義 と 演習	授業中、適宜指示する	寺澤
	5 ～ 9	<p>[表現技術] *表現するための技術と材料研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォングハンドドローイング (30 faces project / 描写力)</li> <li>・30×30 faces project (人と人の繋がり、協同行為)</li> <li>・自然との対話「自然の瓶詰め」(自然物の形と色、関係性、新しい感覚表現)</li> <li>・立体表現と材料研究 (練り消しゴムによる「1/30の自分」、古新聞紙による「生物」、アルミフォイルによる造型)</li> </ul>			
	10 ～ 13	<p>[行為の記録/経験のアート] *思い出や経験を視覚化する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクチャーダイアリー (図、絵、記号、文字による記録と表現)</li> <li>・アートレター (視覚伝達/時間と空間の表現)</li> <li>・ストーリーブック (物語と編集)</li> </ul>			
	14 ～ 15	<p>[自由研究]</p> <p>*これまで行ってきたワークを基に自分なりの多様で自由な表現を模索しながら作品化する。</p>			
評価方法	出席状況・作業態度を加味した上で、提出課題 (感じ、驚き、興味をもちながら創作活動ができているか。感受性豊かに創造性に富んでいるか。) により評価する (100%)				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	使用しない				
備 考	定員 30 名 (*履修希望が定員を越えた場合は、抽選によって決定) 各自が表現素材や材料を用意する。				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術Ⅲ（舞台芸術）		科目履修	可	単位互換
科目番号	A01004	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	中村ひろみ	そ の 他			
担当教員	中村ひろみ				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、舞台芸術の基礎と実際を体験し、身体を通して自己を表現する方法を学習する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>（学科目的） 演劇を上演し、観客と感動を共有する→自己を成長させる （学科目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ、脱力、腹式呼吸、発声を身につけることで身体の可動範囲の広さを体感する</li> <li>・脚本の読み込みと演技を通じ、他者との関係性の中で「人間」を理解する</li> <li>・毎回の講義後、レポートを手書きし、「ふりかえり」「気づき」の時間を確保することで、体感・理解したことを定着させる</li> <li>・体が柔らかくなる、大きな声が出るようになる、人の前でせりふが言える、それまでできなかったことができるようになることで、自分の可能性を認知する</li> </ul>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	自己紹介、身体訓練、身体遊び中心	講義 と 演習	講義後、後述のレポートを作成（毎回、担当講師からレポートの評価・感想を返す）	中村
	2				
	3	身体訓練、発声法、脚本本読み、配役			
	4				
	5	基礎訓練と立ち稽古半々 この時間までに自己解放・リラックスができることを目標とする			
	6				
	7	基礎訓練から立ち稽古中心にシフトしていく。脚本の理解を深める			
	8				
	9	立ち稽古主体 自分だけでなく、せりふのやりとりに重点をおく			
	10				
	11	立ち稽古主体 この時間までにせりふを覚える			
	12				
	13	小返し・通し稽古主体 観客に伝えたいことを深める			
	14				
15	通し稽古、ゲネプロ ほぼ本番通りに演じる				
評 価 方 法	<p>期末試験＝演劇発表会 80%、レポート 10%、出席状況 10% 15回の講義の後、公開講義・発表会を開催する</p>				
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	特になし				
備 考					

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	異文化の理解		科目履修	可	単位互換
科目番号	A01005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義		必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター ※平成28年度は後期に開講します。		単位	2単位 30時間	
科目責任者	結城恵		その他		
担当教員	結城恵				
授業の概要	世界の多様な文化や社会を比較分析し、文化の相違が人間の生活に及ぼす影響を学習する。また、現在人類が直面している諸問題をグローバルな視野で捉えるための方法・態度を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的：多文化地域の社会背景を理解し、共生社会を築くために必要な視点を体得し、地域課題を解決する専門職としての資質を高める。</p> <p>学科目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.多文化社会が生まれた社会的背景を理解する。</li> <li>2.多文化社会における諸課題とその現状を理解する。</li> <li>3.「異」文化のとらえ方が多様であることを理解し、多文化時代に求められる視点を考察する。</li> <li>4.多文化時代の求められる「異」文化のとらえ方を、現実社会の現象にあてはめ、課題を抽出することができる。</li> <li>5.抽出した課題を解決する方法を検討し、専門職として求められる資質を考察することができる。</li> </ol>				
授業の内容と方法	本講義ではまず、群馬県でも顕著に表れているこの現象の社会的背景と多文化する社会がもつ構造的問題を理解する。次に、われわれが自明視しているやりとりや社会の仕組みを「異人の目」でとらえなおすことにより、多文化社会にもとめられるものの見方・考え方を学習する。最後に、多文化地域で保健・医療関係者、あるいは住民として貢献できる人材に必要な資質を体験的に学習する。				
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	「異なる」そして「異文化」とは？	講義・ディスカッション	事後学習課題の 遂行・提出	結城
	2	「異なる」「異文化」はどう生まれるのか？			
	3	「異文化」への理解を探求する手法（理論編）1	講義・作業・ディスカッション		
	4	「異文化」への理解を探求する手法（理論編）2			
	5	「異文化」への理解を探求する手法（実践編）1			
	6	「異文化」への理解を探求する手法（実践編）2			
	7	日本における多文化社会の成立基盤を考察する(1) －日本社会の「あたりまえ」を解く－	講義・ディスカッション	課題図書『幼稚園 で子どもはどう育つか』 新聞記事検索	
	8	日本における多文化社会の成立基盤を考察する(2) －「異なる」はどう生まれるのか－			
	9	日本における多文化社会の成立基盤を考察する(3) －「異なる」こと・ものは扱われるのか－			
	10	日本における多文化社会の成立基盤を考察する(4) －社会の「あたりまえ」が崩れるとき－			
	11	日本における多文化社会の成立基盤を考察する (1)～(4)の理解の確認			
	12	地域の共生課題へのアプローチ(1)	グループ課題の 遂行・発表	資料検索	
	13	地域の共生課題へのアプローチ(2)		データ収集	
	14	地域の共生課題へのアプローチ(3)	グループ発表1	グループ発表1 の評価レポート	
15	地域の共生課題へのアプローチ(4)	グループ発表2	グループ発表2 の評価レポート		
評価方法	試験(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート(30%)、授業への参加態度(30%)によって評価する。				
教科書	結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか』 有信堂高文社				
参考文献等	授業時に適宜紹介する。				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	歴史学の変化と発展	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A01006	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	小林龍彦	そ の 他			
担当教員	小林龍彦				
授業の概要	歴史とは、人類社会の過去における変遷・攻防のありさまである。また、歴史=historyと言う表現にあらわれるように、従来の歴史に関する書物は、男性しかもそのときの権力者の意図を反映して編纂されたという特徴を持つ。この授業においては、歴史学の方法とその展開への理解を通して歴史とは何か、歴史学とはどのような学問なのかを考えながら、現在の歴史学が抱える諸課題を学習する。また、真理に近づく方法としての研究のあり方について関心を高める。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力などを修得させる。 目標：歴史は人間の創造活動の所産であり、過去の事実が現在を生じさせている。その過去を読み解く手段である史料の見方や分析法の学習から真実の姿を見る眼を養うことにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	歴史学を学ぶにあたって	講義	事後学習：講義内容を整理し、復習する	小林龍彦
	2	歴史とはなにか			
	3	歴史と歴史学の意味			
	4	用語「歴史」の誕生から			
	5	歴史叙述のはじまりー『歴史』を読む			
	6	歴史叙述のはじまりー『史記』を読む			
	7	歴史を見る眼とは			
	8	歴史事実の取捨選択問題			
	9	学問としての歴史学とは			
	10	史料探訪・発見・利用問題			
	11	史料を見ること・読むこと			
	12	史料批判			
	13	日本科学史研究の事例からー禁書の輸入			
	14	日本科学史研究の事例からー西洋天文学の受容			
15	講義を振り返って				
評価方法	講義終了後の試験(90%)、出席(10%)などによって評価する。				
教科書	指定なし。				
参考書 参考文献等	福井憲彦『歴史学入門』(岩波書店、2006年) 史学会編『歴史学の最前線』(東京大学出版会、2004年) 岡田英弘『歴史とはなにか』(文芸春秋、平成17年) なお、必要に応じてプリント資料等を配布する。				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	個人と集団	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02001	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期semester	単 位	2単位	30時間	
科目責任者	坂本 祐子	そ の 他			
担当教員	坂本 祐子				
授業の概要	<p>集団とは、特定の共同目標を掲げ相互行為を行っている複数の人々の社会的な結びつきである。また、個人は集団に属することによって、単独では実現できない目標を実現し、欲求を充足できる。一方、集団には、目標達成を図ろうとするあまり、社会的分業関係から逸脱して社会関係を混乱させたり、個人を拘束し抑圧する側面がある。この授業においては、現代社会における個人と集団に関わる諸問題を検討し、この過程をとおして、集団及びその集団を構成する個人が持つ多様な価値観の存在を理解する。また、講義の他、セミナー形式の授業形態も取り入れ、集団の中で他者と相互行為を展開しつつ主体的に役割を遂行するための基礎的態度を学習する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>本講義では、授業の概要に掲げた「個人と集団」の関係における集団を「地域社会」または「家族」と具体化して考察する。</p> <p>【学科学習目標】日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、東日本大震災の復興も含め、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。また、地域に生きる集団としての「家族」も扱いながら、講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。</p> <p>【学科学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会や家族に関する基本的な知識（地域社会・家族の概念、日本社会における歴史的な地域社会・家族の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。</li> <li>2. 地域社会で解決しようとする現代社会の諸問題について学び、家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる。</li> <li>3. 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会および地域社会に生きる家族に対して各自が関心と意見を持つ。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	「個人と集団」とは	講義	毎日、新聞に目を通すことを期待する	坂本
	2	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化			
	3	経済成長とコミュニティ			
	4	地域における人と人とのつながりの現状			
	5	地域コミュニティとソーシャル・キャピタル			
	6	共助社会			
	7	コミュニティビジネスと住民参加のまちづくり			
	8	家族をとらえる（1）近代家族の誕生と特徴、日本における家族の近代化、民法における家族			
	9	家族をとらえる（2）家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族の発達と個人のライフコース			
	10	近代家族の基本概念とその弊害			
	11	労働環境の変化と家族			
	12	家族の個人的機能・社会的機能			
	13	社会制度と家族			
	14	児童虐待			
15	個人と集団—まとめ				
評価方法	定期試験（70％）に平常点（30％）を加味して評価する				
教科書	教科書は使用しない（レジュメや資料を配布）				
参考文献等	<p>森岡清志編（2008）『地域の社会学』有斐閣アルマ          早坂裕子他編（2010）『社会学のつばさ—医療・看護・福祉を学ぶ人のために—』ミネルヴァ書房          広井良典著（2006）『持続可能な福祉社会』ちくま新書</p>				
備考	授業中の私語は厳禁です				



科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可	
授業科目名	人間と職業		科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02002	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	講義		必修選択区分	選択		
開講時期	2年次 後期セメスター		単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石井幸夫		そ の 他			
担当教員	石井幸夫					
授業の概要	人間の普遍的営みとしての労働の意義を明らかにし、専門職の特徴とその定義の変遷を学習する。また、人間と職業、職業を通じた社会への貢献、職業決定のプロセスに関する理論を学習し、社会学的研究方法や社会学的観点からの現象への迫り方を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	(学科学目的) 女性にとっての労働の意味がどう変遷してきたかを明らかにすることによって、人間にとっての労働とは何か、そしてこの問題に社会学はどのようにアプローチするのかを理解する。 (学科学目標) 戦後高度経済成長期(5,60年代から70年代半ばまで)における女性の社会的あり方から説き起こして、これが高度経済成長期以降、70年代半ばから90年代半ばまで、さらに90年代半ば以降、どのように変化していくのかを、その時代の社会状況、および人々の様々な意識のあり方を踏まえて理解し、さらにここから浮かび上がる現代的労働概念の特徴を理解する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	イントロダクション～労働とは何か?	講義	テキストがないので予習は不要ですが、その分復習をしっかりして下さい。	石井	
	2	I 高度経済成長期(50-60年代);家族概念の変化について 1.人口学的異常事態 1)人口爆発 2)少子化				
	3	2.経済学的異常事態 1)人口ボーナス 2)高度経済成長 3.家族革命 1)昭和ヒケタ+ベビーブーム世代の家族 2)まとめ				
	4	資料映像視聴				
	5	II 高度経済成長期以後;女性労働概念の変化 [1](70-80年代)女性労働力率の上昇について 1.労働市場メカニズムからの説明;消費社会化 1)労働需要サイド				
	6	2)労働供給サイド 3)まとめ				
	7	2.ライフコース決定メカニズムからの説明 0)前提 1)「夫の所得」				
	8	1)「夫の所得」(続)				
	9	2)「介護の要請」				
	10	2)「介護の要請」(続)				
	11	3)性別役割分業;二重役割について 4)まとめ				
	12	4)まとめ(続)				
	13	[2](90年代以後)新しい労働概念について 1.現代の労働市場メカニズム;グローバル化				
	14	2.まとめ;新しい労働概念;労働のボランティア化について				
	15	2.まとめ;新しい労働概念(続)				
評価方法	1; 期末試験(70-80%)、2; ミニテスト(11月中を予定)(20-30%)、3; 授業内提出物(リアクションペーパーなど)、授業態度(随時減点)、による総合評価です。					
教科書	ありません。ハンドアウトをネット上からダウンロードする形で配布します。					
参考書 参考文献等	適宜指示します。参考資料をネット上からダウンロードする形で配布します。					
備 考	1; 初回授業で詳細な予定表、履修上の注意をマニュアルとして配布しますから、「短時間でも」必ず出席して下さい。どうしても欠席する場合は、事前に greenartifact アットマーク gmail.com(アットマーク=@)に学籍番号、氏名を書いてメールして下さい。 2; ハンドアウト、資料をダウンロード、印刷する必要があります。 3; リアクションペーパー、レポートの提出にはメールを使用します。					

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	法と正義	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	篠原 敏雄	そ の 他			
担当教員	篠原 敏雄				
授業の概要	人間社会における法律の起源と役割、正義とは何か、正義と法律とはどのような関連があるのかを学習し、憲法及びわが国の法律が国民に保障する基本的人権を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>[目的] 目的は、以下の三つである。第一に、現代日本の国家、国民精神、正義、法律とは、いかにあるべきか、ということ、を、広い視野から学ぶこと。第二に、そのために、法的思考のあり方、特に、憲法における法的思考を学ぶこと。第三に、日本国憲法における基本的人権の構造及びその意義を捉えること。以上である。</p> <p>[目標] 法学における共和主義（「市民的徳」）及び立憲主義（基本的人権）の意義を自覚することを目標とする。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	序章(1)法学とはどのような学問か。	講義	授業時に指示された箇所を、事前・事後に読むこと。	篠原
	2	(2)自由と法、独立と法との関連について。			
	3	第一章「憲法と国家」(1)国家の構造について。			
	4	(2)共和主義について。			
	5	(3)立憲主義について。			
	6	(4)国家の構造と憲法の構造。			
	7	(5)憲法の構造について。			
	8	第二章「憲法と国民」(1)国民の三類型。			
	9	(2)憲法と国民精神との関連。			
	10	第三章「日本国憲法論」(1)憲法制定史①			
	11	(2)憲法制定史②			
	12	(3)基本的人権の図式①			
	13	(4)基本的人権の図式②			
	14	(5)基本的人権の図式③			
	15	終章「市民法学、共和主義、立憲主義」			
評価方法	講義終了後の試験（100％）。論述式の筆記試験により評価する。				
教科書	篠原敏雄『市民法学の輪郭』（勁草書房）				
参考書 参考文献等	篠原敏雄『市民法学の基礎理論』（勁草書房） 篠原敏雄『市民法学の可能性』（勁草書房） その他の参考文献等は、授業時に指示する。				
備考	授業内容と順番は変更することがある。				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	倫理と道徳	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	A02004	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次(2年次) 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	森川 功	そ の 他			
担当教員	森川 功				
授業の概要	倫理学とは、社会的存在としての人間間における共存の規範・原理を考え、追求する学問である。この授業においては、倫理の原理とは何か、倫理と道徳とはどのような違いがあるかを学習し、倫理的原理に関する思想の多様性を理解する。また、この過程を通して、人間社会における倫理的行動を規定する諸要素を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 倫理と道徳との差異を理解する。</li> <li>② 基本的な倫理原則について説明できる。</li> <li>③ 倫理が時代により変化し得るものであること(したがって議論が重要であること)を理解する。</li> <li>④ 特定の事案の倫理的妥当性を分析する場合には道徳や法(法律)も重要な役割を果たし得ることを理解する。</li> <li>⑤ 特定の事案に関して、自分を当事者の立場に置くことなく、その事案が倫理的に正当化されるか否かについて論じることができる。</li> </ul>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	倫理と道徳との差異、数々の事件、倫理理論	講義	毎回、学習課題を提示	森川
	2	基本倫理原則(1)			
	3	基本倫理原則(2)			
	4	基本倫理原則(3)			
	5	基本倫理原則(4)			
	6	インフォームド・コンセント			
	7	具体的な事案の提示と解説(1)			
	8	具体的な事案の提示と解説(2)			
	9	具体的な事案の提示と解説(3)			
	10	具体的な事案の提示と解説(4)			
	11	具体的な事案の提示と解説(5)			
	12	具体的な事案の提示と解説(6)			
	13	具体的な事案の提示と解説(7)			
	14	具体的な事案の提示と解説(8)			
15	具体的な事案の提示と解説(9)				
評価方法	レポート(100%) + 講義における質疑応答				
教科書	使用しない。プリントを配布する。				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜指示をする。				
備 考	特になし				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	社会と経済	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	菅野英機	そ の 他			
担当教員	菅野英機				
授業の概要	経済とは、人間の共同生活の基礎をなす財・サービスの生産・分配・消費の行為・過程並びにそれを通じて形成される人と人との社会関係の総体である。この授業においては、経済に関する学問である経済学の起源と発展過程を学ぶ。また、経済学的観点から人間と社会関係を研究する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	(学科目的) 幅広く経済社会を理解し、さらに医療と市場経済の関連を理解すること。 (学科目標) 幅広い知識と見識を備えた医療テクノロジストとして活躍できる人材の育成。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	3つの社会システムと経済の歴史 強制システム・交換システム・統合システム	講義	講義の内容について次週に小テストを行う。  小テストをしなかった講義に関して、授業内容についてのレポートを次週に提出する。	菅野
	2	交換・市場・価格・所得			
	3	貨幣の発生と役割			
	4	産業革命と市民社会の成立・アダム・スミス 発達した市場経済の成立			
	5	アダム・スミスと国富論・道徳情操論 分業と経済発展、利己心と社会の厚生			
	6	市場の限界と経済・公共政策 失業・所得格差			
	7	市場の限界と経済・公共政策 日照・公害			
	8	市場の限界と経済・公共政策 売春・麻薬・高齢者問題			
	9	市場の限界と経済・公共政策 インフレーション・資源配分・公共財			
	10	医療需要と補助金 医療サービスの価格弾力性			
	11	医療の特性・伝染病の外部性 特殊平等性・不完全情報・不完全競争			
	12	医療保険 日本とアメリカ			
	13	これからの経済社会の変化 雇用形態・市場			
	14	これからの経済社会の変化 知識社会			
15	これからの経済社会の変化 テクノロジストが中心の社会				
評 価 方 法	授業中に小テストを5～8回行い、レポートと合計する。小テスト60%、レポート30%、出席状況10%で評価する。				
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	参考書と参考文献は多岐に渡るため授業中に必要に応じて示す。				
備 考	聴講生も小テストは学力向上のため受けて下さい。				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	心の機能と構造	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02006	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	加藤昌弘	そ の 他			
担当教員	加藤昌弘				
授業の概要	人の心の働きに関する学問としての心理学は、精神または精神現象についての問いかけから始まった。19世紀以降その研究方法には物理学・生理学などの成果を基礎とした実験的方法が取り入れられ、実証的の科学として成立した。この授業においては、心理学の成立過程と発展過程を学ぶ。また、心理学の研究成果を概観し、心の働きを模索するための方法や学的体系の特徴について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目 的： 人間全体を直接の研究対象とし、心の諸相やその発達を概観するとともに、個人と集団との関係についても学びながら、人間を社会的存在として捉えられるようにする。</p> <p>目 標： ①心の持つ基本的な機能と構造を理解する。 ②人間関係の心理学的理解を深め、将来の医療臨床への活用を学ぶ。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	心とは何か - 近代心理学の成立史 -	講義	事前学習…配布資料の指定箇所を読んでおくこと。 事後学習…教科書を使ってその日の学習内容を確認しておくこと。	加藤
	2	関係性の科学とは何か - 心理学の考え方 -			
	3	心の発達とは何か - 発達課題と発達段階 -			
	4	生涯発達心理学① - 発達理論と乳児期 -			
	5	生涯発達心理学② - 幼児期と母子関係の発達 -			
	6	生涯発達心理学③ - 児童期と思春期 -			
	7	生涯発達心理学④ - 中年期 -			
	8	生涯発達心理学⑤とまとめ - 老年期 -			
	9	各論① - 知覚の心理 -			
	10	各論② - 思考の心理 -			
	11	各論③ - 知能の心理と知能検査 -			
	12	各論④ - 記憶の心理 -			
	13	各論⑤ - 学習の心理 -			
	14	各論⑥ - 感情の心理 -			
	15	各論⑦とまとめ - 性格の心理と性格検査 -			
評 価 方 法	期末試験 70%、毎回の「フィードバックシート」の記入 15%、出席状況 15% ※15回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する。				
教 科 書	辰野千寿・著 《系統看護学講座 基礎分野》「心理学(第5版)」医学書院 1996年				
参 考 書 参 考 文 献 等	長田久雄編 「看護学生のための心理学」医学書院 2002年 梅本・大山編著 「心理学への招待」サイエンス社 1992年				
備 考	印刷教材を授業内に配布するが、後日配布しないので、必ずその時間内に受領すること。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 I	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03001	クラス番号	N1・N2		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年前期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	鶴生川恵美子	そ の 他	診療放射線学部とは別内容		
担当教員	鶴生川恵美子・正田久美子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
学 科 目 的 標	基礎的英語表現を言語使用の目的に合わせて総合的に学ぶ。 1. 英文読解：最新の医療や健康に関する英文記事を読み、的確に内容を把握し、解釈できるようにする。 2. 看護英会話：ビデオ教材を使用し、臨床現場で実際に看護師が使用する会話表現を学ぶと共に、基礎的な英語の医療専門用語を学ぶ。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習：本文を読み単語や語句について調べ、内容把握をしておく。  事後学習：単元ごとの復習を行い、疑問点を確認する。	(上段) 正田 (下段) 鶴生川
	2	Unit 1 Hospital Admission Unit 1: Sports and injuries			
	3	Unit 2 The Nurse's Role Unit 1: Sports and injuries			
	4	Unit 3 Life in the Hospital Unit 2: Blood circulation			
	5	Unit 4 Taking Vital Signs Unit 2: Blood circulation			
	6	Unit 5 Taking Vital Signs (2) Unit 3: Muscles and movement			
	7	Mid-term Test			
	8	Unit 6 Providing Meal Assistance Unit 5: The brain: language and sleep			
	9	Oral Presentation Unit 5: The brain: language and sleep			
	10	Unit 7 Rehabilitation (1) Unit 6: Animals and humans			
	11	Unit 8 Rehabilitation (2) Unit 6: Animals and humans			
	12	Unit 9 Shampooing in Bed Unit 10: Drugs and the human body			
	13	Unit 10 Foot-bath Unit 11: Human immunity			
	14	Unit 11 Taking a Blood Sample Unit 12: Humans and their environments			
15	Review Oral Presentation (BBC NEWS)				
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Quizzes 10% Oral Presentation 20% Written tests (Mid-term Test & Final Test) 60%				
教科書	1. <i>Health Talk: English for Hands-on Nursing</i> by Y. Watanabe, P.Uchida, J.Yamamoto (Pearson Education) 2. <i>CLIL Human Biology</i> by Shigeru Sasajima (SANSHUSHA)				
参考書 参考文献等	看護英和辞典(医学書院) 新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社) ステッドマン医学大事典(メディカルビュー社)				
備考	進度に応じてUnitの変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 I	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03001	クラス番号	C1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年後期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	鵜生川恵美子	そ の 他			
担当教員	鵜生川恵美子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	基礎的英語表現を言語使用の目的に合わせて総合的に学ぶ。 1. 英文読解：最新の医療や健康に関する英文記事を読み、的確に内容を把握し、解釈できるようにする。 2. 医療英会話：医療をテーマとしたビデオ教材を使用し、臨床で実際に医療従事者が使用する会話表現を学ぶと共に、基礎的な英語の医療専門用語を学ぶ。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習：予習として事前に配布されたプリントの本文を読み、単語・語句の確認及び内容把握をしておく。  事後学習：單元ごとの復習を行い、疑問点を確認する。	鵜生川
	2	Unit 1 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 1)			
	3	Unit 2 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 2)			
	4	Unit 3 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 3)			
	5	Unit 4 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 4)			
	6	Unit 5 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 5)			
	7	Mid-term Test Review			
	8	Unit 6 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 6)			
	9	Review Research and Presentation (Medical Topic 6)			
	10	Unit 7 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 7)			
	11	Unit 8 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 7)			
	12	Unit 9 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 8)			
	13	Unit 10 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 8)			
	14	Unit 11 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 9)			
15	Unit 12 Awakenings Research and Presentation (Medical Topic 9)				
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Presentation 30% Written tests (Mid-term Test & Final Test) 60%				
教科書	1. 映画化された <i>Awakenings</i> by Oliver Sacks のスクリプトを教材とする。(プリント配布) 2. BBC NEWS からの医療や健康に関する英文記事。(プリント配布)				
参考書 参考文献等	看護英和辞典 (医学書院) 新英和中辞典・リーダーズ英和辞典 (研究社) ステッドマン医学大事典 (メディカルビュー社)				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 II (英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C1・C2・C5・C6 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次後期 (C1・C2)・2年次前期 (C5・C6)	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	アレックス・フォン・アルテンシュタット	そ の 他			
担当教員	アレックス・フォン・アルテンシュタット				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	日常生活の英語表現の聴解力、会話力、討論の基礎技術の促進をはかる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	<Meeting Colleagues> Introducing yourself to the team / Reading a nursing schedule	演習	事前学習：教科書又は図書館の教材を利用して基本的な知識や語彙を調べること。事後学習：学習した内容を週ごとに確認して復習する。	アレックス・フォン・アルテンシュタット
	2	<Meeting Colleagues> Meeting patients and their visitors / Escorting a patient for tests			
	3	<Nursing Assessment> Checking patient details / Describing symptoms			
	4	<Nursing Assessment> Assessing common childhood diseases / Taking a blood sample			
	5	<The Patient Ward> Monitoring body temperature / The patient ward			
	6	<The Patient Ward> Nursing duties / The qualities of a responsible nurse			
	7	<Food and measurements> Hospital food and beverages / Measurements and quantities			
	8	<Food and measurements> Helping a patient order from a hospital menu / Assisting the patient at mealtimes			
	9	<The Body and Movement> The body: limbs and joints / The body: torso and head			
	10	<The Body and Movement> Setting goals and giving encouragement / Documenting ROM exercises			
	11	<Medication> Medication routes and forms / Dosages and frequency			
	12	<Medication> Side effects; assisting patients with medication / Communicating with relatives by phone			
	13	<The Hospital Team> Moving and handling patients / Communicating with team members by phone			
	14	<The Hospital Team> Ordering supplies / Giving simple safety instructions			
	15	<Recovery and assessing the elderly> Caring for a patient in the recovery room / Removing sutures			
評価方法	Attendance & Participation 10% Report 20% Class Presentation 20% Written Test (Mid-term Test 20% & Final Test 30%)				
教科書	<i>English for Nursing 1</i> Ros Wright and Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds / Pearson				
参考書 参考文献等	看護英和辞典 (医学書院) 新英和中辞典・リーダーズ英和辞典 (研究社) ステッドマン医学大事典 (メディカルビュー社)				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				



科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅱ(英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	正田 久実子	そ の 他			
担当教員	正田 久実子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	日常生活の英語表現の聴解力、会話力、討論の基礎技術の促進をはかる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習: テキストの本文を読み、単語や語句を確認し、会話の内容などを把握しておく。  事後学習: 課題とされたスキットの暗記や、用語の復習を行う。	正田
	2	Chapter 1 受付			
	3	Chapter 2 病院案内			
	4	Chapter 3 症状(1)痛み			
	5	Chapter 4 症状(2)その他			
	6	Chapter 5 問診(1)既往歴・家族歴			
	7	Chapter 6 問診(2)アレルギー・生活習慣			
	8	Mid-term Exam			
	9	Chapter 9 外科			
	10	Chapter 10 検査と処置			
	11	Chapter 11 救急患者			
	12	Chapter 12 整形外科・整骨院			
	13	Chapter 13 & 14 リハビリテーション(1)(2)			
	14	Presentation (1)			
15	Presentation (2)				
評 価 方 法	Attendance & Participation 10% Assignments 20% Oral Presentation 20% Written Tests (Mid-term Test & Final Test) 50%				
教 科 書	<i>Medical English Communication</i> (医療英語コミュニケーション) ILC 国際語学センター編著 国際教育社				
参 考 書 参 考 文 献 等	新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社)				
備 考	進度に応じてUnitの変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅱ(英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C4 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	日常生活の英語表現の聴解力、会話力、討論の基礎技術の促進をはかる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習: テキストの本文を読み、単語や語句を確認し、会話の内容を把握しておく。  事後学習: 課題とされたスキットの暗記や、用語の復習を行う。	鶴生川
	2	Chapter 1 受付			
	3	Chapter 2 病院案内			
	4	Chapter 3 症状(1)痛み			
	5	Chapter 4 症状(2)その他			
	6	Chapter 5 問診(1)既往歴・家族歴			
	7	Chapter 6 問診(2)アレルギー・生活習慣			
	8	Mid-term Test			
	9	Chapter 9 外科			
	10	Chapter 10 検査と処置			
	11	Chapter 11 救急患者			
	12	Chapter 12 整形外科・整骨院			
	13	Chapter 13 & 14 リハビリテーション(1)(2)			
	14	Presentation (1)			
15	Presentation (2)				
評 価 方 法	Attendance & Participation 10% Assignments 10% Oral Presentation 20% Written Tests (Mid-term Test & Final Test) 60%				
教 科 書	<i>Medical English Communication</i> (医療英語コミュニケーション) ILC 国際語学センター編著 国際教育社				
参 考 書 参 考 文 献 等	新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社)				
備 考	進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅲ(英語表現)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03003	クラス番号	C1・C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年後期 Semester、2年前期 Semester	単 位	1単位30時間		
科目責任者	宮崎 洋子	そ の 他			
担当教員	宮崎 洋子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	アカデミック・ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び、自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction, Unit 1 Expository paragraphs	演習	予習として、各 Unit の内容を 読んでおく。課 題レポートを きちんと提出 できるよう積 極的に取り組 む。 また、毎週 200 語程度の journal を書い て提出しても らう。	宮崎
	2	Unit 1 Focus: topic sentences and paragraph format			
	3	Unit 1 One paragraph about yourself			
	4	Unit 2 Definition paragraphs			
	5	Unit 2 Focus: attention getters and avoiding repetition			
	6	Unit 2 A composition about an invention			
	7	Unit 5 Cause-and effect paragraphs			
	8	Unit 5 Focus: Introductory paragraphs and cause-and-effect words			
	9	Unit 5 A composition about an important event in your life			
	10	Unit 8 Comparison-contrast paragraphs			
	11	Unit 8 Focus: showing similarities and differences			
	12	Unit 8 An article about good and bad interview techniques			
	13	Unit 9 Persuasive paragraphs			
	14	Unit 9 Focus: types of supporting sentences			
	15	Unit 9 A letter to yourself about your goals			
評 価 方 法	Attendance 10% Participation & Assignments 40% Final Test (final writing assignment) 50%				
教 科 書	Writing from Within 2 Second Edition, Curtis Kelly & Arlen Gargagliano, Cambridge Univ. Press				
参 考 書 参 考 文 献 等	英和中辞典 和英中辞典				
備 考	定員15名程度とする。 進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅲ(英語表現)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03003	クラス番号	C2 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年 後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び、自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習：Unitの内容を読み、単語や語句の確認をしておく。また journal writing (200字程度)を書いて提出する。(ほぼ毎回)  事後学習：出題された課題レポートを期限内に提出できるよう積極的に取り組む。	鶴生川
	2	Unit 1 The Sentence and the Paragraph			
	3	Unit 1 The Sentence and the Paragraph			
	4	Unit 2 Descriptive Paragraphs			
	5	Unit 2 Descriptive Paragraphs			
	6	Unit 2 Descriptive Paragraphs			
	7	Unit 2 Descriptive Paragraphs			
	8	Unit 4 Process Paragraphs			
	9	Unit 4 Process Paragraphs			
	10	Unit 4 Process Paragraphs			
	11	Unit 4 Process Paragraphs			
	12	Unit 6 Opinion Paragraphs			
	13	Unit 6 Opinion Paragraphs			
	14	Unit 6 Opinion Paragraphs			
15	Unit 6 Opinion Paragraphs				
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Journal Writing 40% Essay Writing (Final Test) 50%				
教科書	<i>Effective Academic Writing</i> , Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford Univ. Press				
参考書 参考文献等	英和中辞典 和英中辞典				
備 考	定員 15名程度とする。 進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03010	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年 後期セメスター	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学 科 目 的 標	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習：事前配布されたワークシートを参考に、本文を読み、単語や語句について調べ、内容把握をしておく。  事後学習：復習を徹底し、疑問点を確認する。	鶴生川
	2	Unit 1 The Curriculum			
	3	Unit 1 The Curriculum			
	4	Unit 2 The Syllabus			
	5	Unit 2 The Syllabus			
	6	Unit 3 The Student			
	7	Unit 3 The Student			
	8	Mid-term Test			
	9	Unit 4 The Orientation			
	10	Unit 4 The Orientation			
	11	Unit 5 The First Tuesday			
	12	Unit 5 The First Tuesday			
	13	Presentation (1)			
	14	Presentation (2)			
15	Unit 6 The Fourteenth Tuesday				
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Presentation 30% Written Tests (Mid-term Test & Final Test) 60%				
教科書	<i>Tuesdays with Morrie</i> by Mitch Albom (BROADWAY BOOKS,1997) ワークシートを事前に配布。				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典 『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(日本放送出版協会、1998) 普及版・『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(NHK 出版、2004)				
備考	進度に応じて内容の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03010	クラス番号	C2 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年 後期セメスター	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学 科 目 的 標	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction Unit 1 What is "Health" ?	演習	事前学習: 担当グループは本文の要約や語彙等についてまとめたレジュメを用意して発表ができるように準備する。担当ではない学生も、単語や語句について確認し、本文の内容把握をしておく。  事後学習: 復習を徹底し、疑問点を確認する。	鶴生川
	2	Unit 2 Metabolic Syndrome			
	3	Unit 3 Medical Checks			
	4	Unit 4 Nutrition			
	5	Unit 5 Food Additives			
	6	Unit 6 Vitamin & Supplements			
	7	Unit 7 Medicine			
	8	Mid-term Test & Review			
	9	Unit 8 Alzheimer's			
	10	Unit 9 Aging			
	11	Unit 10 Allergies			
	12	Unit 11 Pandemics			
	13	Unit 12 Stress & Depression			
	14	Unit 13 Cancer Unit 14 Therapy			
	15	Unit 15 iPS Cells Unit 16 Laughter			
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Presentation 30% Written Tests (Mid-term Test & Final Test) 60% Unit1~16の中から選んだ章を担当グループが発表する形式をとる。				
教科書	<i>What Makes Us Healthy?</i> (「健康とより良き生活のための16章」) Christopher Bullsmith 他 (TSURUMI SHOTEN)				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典				
備 考	進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03010	クラス番号	C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学 科 目 的 標	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学習：事前配布されたワークシートを参考に、本文を読み、単語や語句について調べ、内容把握をしておく。  事後学習：復習を徹底し、疑問点を確認する。	鶴生川
	2	Unit 1 The Curriculum			
	3	Unit 1 The Curriculum			
	4	Unit 2 The Syllabus			
	5	Unit 2 The Syllabus			
	6	Unit 3 The Student			
	7	Unit 3 The Student			
	8	Mid-term Test			
	9	Unit 4 The Orientation			
	10	Unit 4 The Orientation			
	11	Unit 5 The First Tuesday			
	12	Unit 5 The First Tuesday			
	13	Presentation (1)			
	14	Presentation (2)			
15	Unit 6 The Fourteenth Tuesday				
評価方法	Attendance & Participation 10% Assignments & Presentation 30% Written Test (Mid-term Test & Final Test) 60%				
教科書	<i>Tuesdays with Morrie</i> by M Mitch Albom (BROADWAY BOOKS, 1997) 参考資料などは必要に応じて配布する。				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典 『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(日本放送出版協会、1998) 普及版・『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(NHK 出版、2004)				
備考	進度に応じて内容の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	中国語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03004	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次・(1年次) 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	林 秀行	そ の 他			
担当教員	林 秀行				
授業の概要	中国語により表現された文学作品を鑑賞し、中国語の起源及びその発展の歴史を学習する。また、中国語による日常生活表現を学ぶとともに日本語と中国語との関係について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	中国語でのコミュニケーションに必要な中国語の基礎力を養成する。 発音の習得、あいさつなどの簡単な会話と基礎文法を理解し修得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	中国語を学ぶ意義。中国概説。スキルとしての外国語の学び方。中国語ローマ字表記(ピンイン)を学ぶ。発音練習。	講義・演習	教科書付帯のCDやインターネットを利用して中国語を耳にすること	林
	2	[発音①声調・基礎母音・子音1] 実際に聴いて中国語の発音に触れる。中国語ローマ字表記(ピンイン)を学ぶ。発音練習。			
	3	[発音②複合母音・子音2] 間違いやすい発音(1~10000)、自分の名前を中国語で言う。年月日と曜日を学ぶ。発音練習。			
	4	[基本文法1動詞述語文(S+V+O)] 人称代名詞、指示代名詞、否定形、疑問文、連体修飾を学ぶ。発音練習。			
	5	[基本文法2二重目的語文(S+V+O+O)] 量詞(数量詞)と名詞を学ぶ。			
	6	[基本文法3連動文(S+V+O+V+O)] 「私は映画を観るのが好き」			
	7	[基本文法4形容詞述語文] 省略疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学ぶ。			
	8	集中的な聞き取り練習及び発音練習。ピンイン習熟度テスト			
	9	[基本文法5所在を表す「在」] 位置に関する言葉を学ぶ。			
	10	[基本文法6存在を表す「有」] 数量に関する言葉を学ぶ。			
	11	[基本文法7時制と時態] 「動作の時点」と「動作の時間量、回数」を学ぶ。			
	12	[基本文法8主述述語文(主語が2つある文)] 「群馬は夏は暑い」			
	13	[基本文法9助動詞] 意思、可能性の表現、語気を表す助詞を学ぶ。			
	14	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習			
	15	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習。			
	◎毎回、発音練習と会話練習を行います。恥ずかしがる気持ちは、コミュニケーションの妨げになります。無意味に恥ずかしがる傾向のある人は、自らの性向を理解し、語学を通して克服していきましょう。				
評 価 方 法	試験 90%、出席状況 10%				
教 科 書	医療系学生のための初級中国語 白帝社				
参 考 書 参 考 文 献 等	必要に応じプリントを用意する。				
備 考	定員60人				



科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	フランス語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03005	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	田口宏明	そ の 他			
担当教員	田口宏明				
授業の概要	フランス語の起源と国際的な普及の現状を理解し、他の言語との比較検討を通して、その特徴を学習する。また、フランス語により表現された文学作品を鑑賞し、フランス語圏の文化の特徴や言語圏の異なる人々の生活とわが国の文化の違いなどを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：フランス語の使い方、またフランスおよびフランス語圏の文化・社会についての理解を深める。</p> <p>目標：1. 綴り字の読み方と数詞を覚えること。 2. 冠詞・形容詞などの性数一致に慣れること 3. 各時制の活用と用法を覚えること。 4. フランス語の簡単な文を読んで理解すること。 5. 他の言語と比較してフランス語の特徴と歴史を理解すること。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	フランス語の起源と普及状況など 冠詞 数詞	講義 ・ 演習	毎回指示された学習範囲の復習と、次回の学習予定範囲を精読しておくこと。学習状況は小テストで確認する。	田口
	2	voilà, voici ; 動詞 être と avoir			
	3	c'est と ce sont			
	4	疑問文と否定文			
	5	第1群規則動詞 所有形容詞			
	6	不規則動詞 部分冠詞			
	7	il y a ; 形容詞			
	8	前置詞と冠詞の縮約 近接未来 近接過去			
	9	疑問代名詞 第2群規則動詞			
	10	過去分詞 受動態			
	11	直説法単純未来			
	12	疑問形容詞 指示形容詞			
	13	指示代名詞 直説法複合過去			
	14	目的語の人称代名詞			
15	さまざまな法と時制および既習事項のまとめ				
評価方法	基本的には、毎回の小テスト(50%)と期末試験(50%)ですが、授業への参加姿勢を考慮に入れる場合があります。				
教科書	指定なし。プリント等の形式で配布します。				
参考書 参考文献等	三省堂 クラウン仏和辞典、白水社 現代フランス語辞典、大修館 ジュネス仏和辞典、旺文社 プチ・ロワイヤル仏和辞典、小学館 プログレッシブ仏和辞典				
備考	NHK のラジオ講座の聴取、フランス語検定試験の受験をおすすめします。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	ポルトガル語		科目履修	否	単位互換
科目番号	A03006	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習		必修選択区分	選択	
開講時期	2年次・(1年次) 後期セメスター		単 位	2単位 60時間	
科目責任者	東海林マコ賢		そ の 他		
担当教員	東海林マコ賢				
授業の概要	群馬県は、ブラジルとの交流が盛んな県である。かつて、群馬県からのブラジル移民は多く、平成8年には、その意向を受け、ブラジル政府から熱帯雨林を買い受け「アマゾン群馬の森」を作り、熱帯雨林の保護に乗り出した。また、ブラジルからの就業者も多く受け入れ、現在約1万6千人のブラジル人が生活している。ポルトガル語はブラジル国民の公用語であり、群馬県民にとって身近な外国語の一つである。また、ポルトガルは室町末期から江戸時代の日本文化に大きな影響を与えた国であり、ポルトガル語を由来とする外来語も多い。この授業においては、ポルトガル語の起源と発展の概要とともに、日本語文化への影響を学習する。また、ポルトガル語による日常生活表現を習得する過程を通して、ブラジルの歴史的背景を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：ポルトガル語で医療の専門的用語の知識を深めると共に、ポルトガル語での簡単な話を身につける。 目標：学生一人ひとりが将来、学習したポルトガル語を職業で生かしながら役立てることができる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	ポルトガル語の由来と文化について	演習 ・ 講義	毎回、学習課題を提示	東海林
	2	文法(1)アルファベット・アクセント・発音			
	3	数字と数え方／人間の体			
	4	文法(2)名詞・動詞			
	5	文法(3)医療用語			
	6	会話(1)病院／事故			
	7	文法(4)時間・曜日			
	8	会話(2)症状の訴え方			
	9	問診票の記入(産婦人科)			
	10	会話(3)理美容院でのやりとり			
	11	問診票の記入(泌尿器科・整形外科)			
	12	問診票の記入(耳鼻咽喉科)			
	13	ジェンダーに関する用語／歯医者と薬局			
	14	総復習①			
15	総復習②				
評 価 方 法	筆記試験 80%、出席状況 10%、授業への参加貢献状況 10%				
教 科 書	指定しない				
参 考 書 参 考 文 献 等	中萩エルザ：暮らしの医療用語辞典，2002，(株)インターナショナルプレスジャパン				
備 考	定員80名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、抽選により履修者を決定する。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	韓国語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03011	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	櫻井 正明	そ の 他			
担当教員	櫻井 正明				
授業の概要	文字の成り立ちや発音を学習する。正しい発音を身に付けるために、発音変化の仕組みを学び発音練習を重ねていく。日常生活及び周辺の一般的な素材に関する易しい文字を理解し、基本構文を日本語と対照しながら学び徐々に韓国語に馴染んでいく。DIALOGUE (対話)は映像で場面確認しながら練習し、雰囲気や話し言葉の特徴なども身につける。言葉を学ぶことは、その国の文化をも学ぶので韓国ドラマやK-POPからも韓国や韓国人の特徴、文化の共通点、相違点なども知り、学ぶ。(視聴覚教材なども用いる。)				
学 科 目 的 学 科 目 標	韓国文化と日本文化との共通点、相違点を言葉を通して理解し、学び、コミュニケーションをはかる。 ハングル(文字)への違和感をなくす。韓国や韓国人に興味を持ち、友達をつくる。韓国新聞、雑誌を読む。韓国映画を理解する。修了時ハングル能力検定試験5級レベル。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後 学習(学習 課題)	担当
	1	韓国語の語順、韓国語の文字、韓国語の発音のポイント、反切表、母音	講義 ・ 演習	教科書に 沿って授 業をする ので添付 されたC Dを欠か さず聞く こと	櫻井
	2	子音、激音、濃音、重母音			
	3	基本単語、数字の表現、月日、曜日、時間、人・家族の呼び方、「こそあど」表現			
	4	子音字の名称と辞典の配列順序、1「～です」			
	5	2「～ですか」、3「～ではありません」、フォーマル表現、4「～(し)ます/です」			
	6	5「～(し)ますか/ですか」、6前置形否定「～(し)ません/くない」、7後置形否定「～(し)ない/くない」、フォーマル表現			
	7	8「～(を)ください」、9「～(を)くださいますか」、10「～(は)いません」、11「～してください」			
	8	12「～(を)してくれますか」、13「～(を)お願いします」、フォーマル表現、14「～したい」			
	9	15「～したいですか」、16「～したくない」、17「～してもいいですか」、18「～(して)みてもいいですか」			
	10	19「～(が)あります/います」、20「～(は)ありますか/いますか」、21「～(は)ありません/いません」			
	11	22「～することができます」、23「～することができますか」、24「～することができません」			
	12	25「～できません」、26「どこ」、27「何」、28「いつ」			
	13	29「だれ」、30「なぜ」、31「どの～」、32「どんな」			
	14	33「どのように」、34「～しました」、35「～しましたか」			
	15	36「～できませんでした」、37「～したことがあります」、38「～したことがない」			
評 価 方 法	中間試験 50%、期末試験 50%を基本に、宿題・出席・授業中の態度等総合的に評価する				
教 科 書	「韓国語会話 55の鉄則表現」 櫻井 正明 監修(三修社) ISBN978-4-384-04296-2				
参 考 書 参 考 文 献 等	特になし				
備 考	ハングル能力検定試験が毎年6月と11月に実施されるので受けることが望ましい				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学 I	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03007	クラス番号	N1・N2 (看護学部)		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	堀謙太	そ の 他			
担当教員	堀謙太				
授業の概要	<p>社会の中で生活する人間は、多量のデータから必要な情報を取得し、意味解釈を加え、意思決定し、様々な情報を発信している。また、適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには、情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業に置いては、情報処理の基本を学習しながら、メディアリテラシーを主体とした情報技術(IT)の特徴を理解する。具体的にはパーソナルコンピュータの操作、ファイルの取り扱い、基本的なソフトウェアを活用した演習を行い、情報処理の原理・原則を理解し、その有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を学習する。</p>				
学 科 目 的 標	<p>情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 インターネットサービスと情報セキュリティ、ICT技術を活用したレポート作成とデータ解析についての基礎的素養を身につける。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学内情報ネットワークサービスの概要 (1)	講義 ・ 演習	<p>授業の進行に応じて小テストおよびレポート課題を実施するので必ず提出すること。</p> <p>授業で扱う内容も含め、教科書に記載されている課題について自己学習すること。</p> <p>授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。</p>	堀
	2	学内情報ネットワークサービスの概要 (2)			
	3	電子メールの仕組み			
	4	電子メールによるコミュニケーション			
	5	電子メールのマナー			
	6	迷惑メールとセキュリティ対策			
	7	インターネットと情報セキュリティ			
	8	情報の適切な利用 (1)			
	9	情報の適切な利用 (2)			
	10	インターネットコミュニケーション			
	11	ICT技術を活用したレポート作成 (1) レポートを書く準備			
	12	(2) レポートの内容を考える			
	13	(3) レポートのための調査・研究			
	14	(4) インターネット情報検索			
	15	(5) レポートの構造を考える			
	16	(6) レポートの文章を書く			
	17	(7) レポートの文章を見直す			
	18	(8) レポートを仕上げる			
	19	ドキュメントコミュニケーション			
	20	表計算ソフトの基本 (1) 表計算ソフトを使う			
	21	(2) 表計算ソフトで計算する			
	22	(3) 表計算ソフトで高度な計算			
	23	(4) 表計算ソフトでデータの見える化			
	24	表計算ソフトによるデータ解析 (1) 統計解析の考え方			
	25	(2) 集団を代表する数字			
	26	(3) 集団の関連性を調べる			
	27	(4) 標本調査と点推定			
	28	(5) 分布モデルと区間推定			
	29	データ解析と情報			
	30	情報の利活用と情報科学			
評価方法	レポート課題等の提出状況および内容に基づく総合評価 (100%)				
教科書	<p>1. 考える伝える分かちあう情報活用力 noa 出版</p> <p>2. 情報倫理ハンドブック noa 出版</p> <p>3. マンガでわかる統計学 高橋信・トレンドプロ オーム社</p>				
参考書 参考文献等	自ら考える 判断する 行動する 仮説⇔検証 noa 出版				
備 考	特になし				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅱ	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03008	クラス番号	C1・C2 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	堀謙太	そ の 他			
担当教員	堀謙太				
授業の概要	パーソナルコンピュータの動画処理、音声処理のマルチメディア機能を用いると、様々な情報コンテンツが作成できる。インターネット社会においては、マルチメディアを用いた情報コンテンツを個人で作成し、Web page (ホームページ) として、自由に発信することが可能となる。また、研究発表の際には、マルチメディアを活用したプレゼンテーション能力が必要となる。この授業においては、図形処理、動画処理などの技術を活用したホームページ・プレゼンテーションの制作演習を通して、現代社会における情報の適正利用に関わる倫理、情報表現能力を学習する。				
学 科 目 的	マルチメディアによる情報表現の手法を理解する				
学 科 目 標	Web ページの作成・公開、プレゼンテーションを通じて情報発信の基礎的素養を身につける。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	情報科学の観点から見た情報発信と授業の目的	講義 ・ 演習	授業の進行に応じて課題を提示するので必ず実施すること。  授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。	堀
	2	情報メディアと情報発信の考え方			
	3	[Web ページ]World Wide Web と Web ページの仕組み			
	4	[プレゼンテーション]プレゼンテーションの役割と手段			
	5	[Web ページ]Web ページの公開			
	6	[プレゼンテーション]発表の組み立て			
	7	[Web ページ]ハイパーリンク			
	8	[プレゼンテーション]発表の設計			
	9	[Web ページ]Web ページの整形			
	10	[プレゼンテーション]視覚表現としての箇条書き			
	11	[Web ページ]Web ページの箇条書き			
	12	[プレゼンテーション] プレゼンテーションソフトの作図機能			
	13	[Web ページ]CSS による Web ページデザイン			
	14	[プレゼンテーション] 図解による説明			
	15	[Web ページ]CSS による細かいデザイン調整			
	16	[プレゼンテーション]スライドデザイン			
	17	[Web ページ] CSS の活用と Web ページデザイン			
	18	[プレゼンテーション]アニメーションによる演出			
	19	[Web ページ]Web ページの中の画像			
	20	[プレゼンテーション]発表前の仕上げ			
	21	[Web ページ] Web ページと著作権			
	22	[プレゼンテーション]発表の進め方			
	23	Web ページ、プレゼンテーションによる情報発信			
	24	プレゼンテーション演習 (1)			
	25	プレゼンテーション演習 (2)			
	26	プレゼンテーション演習 (3)			
	27	プレゼンテーション演習 (4)			
	28	Web ページ作成演習 (1)			
	29	Web ページ作成演習 (2)			
	30	Web ページ作成演習 (3)			
評価方法	演習課題の実施状況及び内容、レポート等の提出状況及び内容 (100%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	考える伝える分かちあう情報活用力 noa 出版 自ら考える 判断する 行動する 仮説⇔検証 noa 出版				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅲ	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03009	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次・(1年次) 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	堀謙太	そ の 他			
担当教員	堀謙太				
授業の概要	コンピュータが情報を処理する場合、その処理過程を記述した計算手順(アルゴリズム)が必要となる。この授業においては、基本的なアルゴリズムであるソート法、探索法等を学習する。また、これを基盤として画像処理アルゴリズムの原理について学習する。さらにC言語、java言語などによる画像処理アルゴリズムのプログラミングの体験を通して、情報処理におけるプログラミングの実際と機能を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	プログラミング実習を通して情報処理のメカニズムを理解する。 Java言語を用いてデータ処理を行うプログラムを作成する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	コンピュータとプログラミング	講義 ・ 演習	授業の進行に応じて課題を提示するので必ず実施すること。  授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。	堀
	2				
	3	プログラムの作成と実行			
	4				
	5	コンピュータにおける情報表現			
	6				
	7	コンピュータにおける数値計算			
	8				
	9	プログラムの流れを制御する(1)条件分岐			
	10				
	11	プログラムの流れを制御する(2)繰り返し処理			
	12				
	13	たくさんのデータをまとめて扱う(配列)			
	14				
	15	プログラムを分割する(関数)			
	16				
	17	関数の色々な使い方			
	18				
	19	他のプログラムを呼び出す			
	20				
	21	“モノ”指向のプログラミング (オブジェクト指向プログラミング)			
	22				
	23	クラスを使ったプログラミング			
	24				
	25	データの入力			
	26				
	27	データの出力			
	28				
	29	データを処理するプログラム			
	30				
評価方法	演習課題の実施状況および内容, レポート等の提出状況および内容 (100%)				
教科書	特に指定しない				
参考書 参考文献等	やさしいJava 高橋麻奈 ソフトバンククリエイティブ				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否
授業科目名	生活と科学Ⅰ（人文・社会科学と生活：哲学）		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	A04001	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次（2年次） 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	森川 功	そ の 他			
担当教員	森川 功				
授業の概要	科学、すなわち自然科学と捉えることが多いが、科学を広義に捉えた場合、人文科学、社会科学が含まれる。この授業においては、科学を広義に捉え、諸科学の基礎となる哲学を主題として、その成り立ちと展開を学習する。また、哲学の諸科学への影響と日常生活と哲学との関連を学習する。さらに「思考する」という人間生活に必須の活動と哲学の関係についても理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	哲学の歴史に関して教養を得るとともに、人が自律的な存在であることをきちんと認識し、自分自身で物事に疑問を持ち、深く考えるという習慣を身につける。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	哲学の論題1：神と自然	講義	毎回、学習課題を提示	森川
	2	哲学の論題2：自由			
	3	哲学の論題3：生と死			
	4	古代哲学1：自然哲学			
	5	古代哲学2：ギリシャ哲学、ソクラテス			
	6	古代哲学3：プラトン、アリストテレス、他			
	7	中世哲学1：神中心の哲学、アウグスティヌス			
	8	中世哲学2：トマス・アクイナス、他			
	9	近代哲学1：ルネッサンス、宗教改革			
	10	近代哲学2：ベーコン、デカルト、スピノザ、他			
	11	近代哲学3：ロック、ヒューム、ルソー、他			
	12	近代哲学4：カント、ヘーゲル、ベンサム、他			
	13	近代哲学5：ミル、キルケゴール、ニーチェ、他			
	14	現代哲学1：フロイト、ヤスパース、他			
	15	現代哲学2：サルトル、他（総括）			
評 価 方 法	レポート(100%)＋講義における質疑応答				
教 科 書	指定なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	講義中に必要に応じて適宜提示をする。				
備 考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅱ (人文・社会科学と生活：文学)	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A04002	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	案田順子	そ の 他			
担当教員	案田順子				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、人文・社会科学を科学として位置づけた上で、人文科学の中でも、言語表現による芸術作品を研究する学問である文学を対象にその方法と特徴を学習する。また、人間の生活に対する文学的接近方法を学習し、芸術作品と生活との関連を文学的視点から理解し、文学の研究成果の日常生活への活用方法を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的：生きとし生けるものにとって永遠の課題である「生」と「死」の概念の多様性を文学作品によって習得し、命を預かる職業人としての責務と重責を死生観から再確認する。</p> <p>学科目標： 1. 方丈記・徒然草における死生観の差異を口語訳文によって理解する。 2. 夏目漱石「こころ」における殉死を含めた死生観の特徴を理解する。 3. 正岡子規「病床六尺」の死生観の特徴を把握、2との差異を理解する。 4. 各自が個々の死生観を構築する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	死生観とは何か	講義	死生観概要把握	案田
	2	方丈記を口語訳で読む①		内容把握	
	3	方丈記を口語訳で読む②		内容把握	
	4	方丈記の死生観		死生観概要把握	
	5	徒然草を口語訳で読む①		内容把握	
	6	徒然草を口語訳で読む②		内容把握	
	7	徒然草の死生観		死生観概要把握	
	8	夏目漱石「こころ」を読む①		内容把握	
	9	夏目漱石「こころ」を読む②		内容把握	
	10	夏目漱石「こころ」を読む③		内容把握	
	11	夏目漱石の死生観		死生観概要把握	
	12	正岡子規「病床六尺」を読む①		内容把握	
	13	正岡子規「病床六尺」を読む②		内容把握	
	14	正岡子規の死生観		死生観概要把握	
15	死生観を考える	死生観構築			
評 価 方 法	出席状況20%、授業時レポート20%、学期末試験60%とする。				
教 科 書	市販のものは使用しない。各作品の重要部分を抽出し使用するため、オリジナル・プリントを作成、配布する。				
参 考 書 参 考 文 献 等	なし				
備 考	高校時代までの文法中心の講義は行わず古典作品本文の下には口語訳文を配する。これは古文読解よりも内容把握と理解に重点を置くことによる。「常識」としての古典知識と鑑賞力も養って欲しい。				



科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅲ (人文・社会科学と生活：政治学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	片桐庸夫	そ の 他			
担当教員	片桐庸夫				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、人文・社会科学を科学として位置づけた上で、社会科学の中でも人類最古の科学の一つとされる政治学を対象に、その時代的変遷、方法と特徴、人間の生活と政治学との関係などを学習する。また、これらの学習を通して人間社会の秩序と政治の関係について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的) 今日の日本は大きな転換期にある。戦後日本の政治、経済、社会の歩みを理解し、これからの「この国の形」、在り方について自分なりの考え、意見を持てるようになること。</p> <p>学科目標) 本科目授業が終了した時点で下記の目標を達成すること。</p> <p>1) 新聞、テレビのニュースや時事問題解説が理解できるようになること。</p> <p>2) 靖国問題、国際貢献、国連の平和維持活動(PKO)への自衛隊の参加問題、集団的自衛権の問題、尖閣列島や竹島をめぐる領土問題、原子力発電所の再稼働問題等、日本の課題に対して自分なりの意見を持てるようになること。</p> <p>3) グローバル化が進捗する時代に世界の課題に関心を持ち、日本の課題も世界的視野で考えられるようになること。</p>				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授 業 内 容	授 業 形 態	事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)	担 当
	1	プロローグ 20世紀後半から21世紀の現在に至る間の日本の軌跡について概観し、日本の直面する課題にはどんなことがあるのかについて考える。	講義	予習や復習を行う、或いはやむを得ない事情により欠席した場合には、テキストの以下のページを読み、不明な点は担当教員に質問等をしてください。	片桐
	2	米国の対日占領政策 1945年に敗戦を迎えた日本がマッカーサーの指揮する米軍に占領され、その占領期間に行われた非軍事化や民主化、日本国憲法の制定等を通じていかに今日の日本の原型が形成されたのかについて考える。		第1回 レジュメを配布するので、それを見てください。	
	3	冷戦の波及と米国の初期対日占領政策の修正 冷戦のアジア波及により、米軍の対日占領政策がどのように修正され、その結果として再軍備・自衛隊の創設、在日米軍の駐留等が決まり、経済大国・軍事小国への道を歩むことになったのかについて考える。		第2回 第一回と同じ。	
	4	サンフランシスコ講和条約と独立の回復 米ソ冷戦下に米国主導で開催された対日講和条約をめぐって、日本国内では全面講和論と片面(多数)講和論が対峙した。双方の主張の差、講和条約のメリットとデメリット、日米安保締結等について考える。		第3回 第一回と同じ。	
	5	朝鮮特需と経済白書 朝鮮戦争は日本に特需をもたらした。日本の経済復興の起爆剤となった。また昭和31年の経済白書は「もはや戦後ではない」と述べるまでに至った。日本の経済復興ぶりについて考える。		第4回 p.18-21	
	6	日ソ国交正常化と日米安保改定 サンフランシスコ講和条約の負の側面であるソ連との国交正常化、戦後の日米不平等な内容の日米安保条約の改定、大規模な反安保闘争について考える。		第5回 p.22-30	
	7	所得倍増計画と「上を向いて歩こう」 1960年代の高度経済成長は、次第に国民に豊かさや大量消費時代をもたらした。しかし、反面では地方の過疎化、都会の過密化、農業の疲弊、公害といったマイナス面も露出することになる。60年代の光と影について考える。		第6回 p.31-47	
	8	先進国への道と成長へのけん引力 高度経済成長を達成しながら、日本は一流国のシンボルでもあるIMF8カ国入りを実現し、世界第2位の経済大国になる。今では当たり前の海外旅行の自由化、国民皆保険体制の確立も行われる。社会の変容やその特質について考える。		第7回 p.50-54	
	9	「豊かさ」への離陸 高度経済成長策の開花により、1億総中流意識が広まり、大規模団地の誕生や核家族化が進んだ。更には消費が美德となり、「大きいことはいいこと」になった。物的豊かさや精神的豊かさのバランスについて考える。		第8回 p.55-66	
	10	ベトナム戦争と冷戦の終結 1960年代中頃から70年代においては、北爆に象徴されるようにベトナム戦争の激化、「どろ沼化」、反戦運動の高揚があり、それが冷戦世界の構造に変革をもたらすことになる。冷戦の世界からポスト冷戦世界への移行とその日本への影響について考える。		第9回 p.67-88	
	11	日中国交正常化・沖縄返還 冷戦の終結は、日本に「戦後」の終わりをもたらすことになった。それは、戦後国交のなかった日中関係正常化を可能にし、核抜き本土並みの沖縄返還と「戦後」の終わりを実現した。「戦後」の終わりの意味について考える。		第10回 p.89-96	
	12	日本株式会社と変動相場制移行 経済力をつけたRising Sun日本の政官財の三角関係はJapan Inc.と揶揄され、ベトナム戦争により経済的にも疲弊した米国から日本市場の開放を強く迫られた。そんな中、日本はニクソン・ショックを受け、円の変動相場制に移行することになる。今日の日本経済の起点について考える。		第11回 p.97-105	
	13	大国化と国際化 日本が大国化することは、国際化を求められることでもあった。それは市場の開放で済むのではなく、国際貢献や日本人自身の国際化(内なる国際化も含む)と、異文化理解、英語やアジアの言語にも通じる必要性に迫られることでもあった。日本の国際化、異文化理解、日本人論について考える。		第12回 p.108-136	
	14	性差別への挑戦 日本では、未だに女性の管理職就任者や女性議員の数は少ない。しかし、変化は起きつつある。フェミニズム、雇用の機会均等、総合職、性別役割、ジェンダー等の問題やaffirmative actionについて考える。		第13回 p.137-150	
15	まとめ 「普通の国」日本、安部首相のいう積極的平和主義について考える。		第14回 p.151-168		
			第15回 p.186-222		
評 価 方 法	講義への出席(15%)、講義に臨む姿勢(15%)、試験の成績(70%)の割合で評価する。なお出席が3分の2以下の者は試験が受けられません。				
教 科 書	鹿野政直『日本の現代』岩波ジュニア新書、2010年、740円。				
参 考 書	弁味準之助『戦後政治1945年』上・下巻、東大学出版社、1983年、1600円×2。入江昭『新日本の外交』中公新書、1991年、740円。明石康編『日本の立ち位置を考える』岩波書店、2013年、2100円。				
備 考	教員への連絡方法：n.katagiri.ipr@gmail.com を利用してください。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅳ（自然科学と生活：生物学）		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04004	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・（2年次） 前期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	青木武生	そ の 他			
担当教員	青木武生				
授業の概要	この授業においては科学を広義に捉え、自然科学を科学の一領域として位置づけた上で自然科学の一つである生物学の成立と展開、生物学の成果と現代の生活との関係を学習する。また、生物学の研究手法に触れるとともにその方法の特徴と限界、学問としての生物学の発展性と生物学の研究成果を生活に活用するための課題について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：人間も含む自然界における現象を理解するための基本的な思考力を養うこと。 目標：動物の体作りを中心課題として生物学的に理解すること。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	地球の歴史と生命の進化1	講義	普段から絶滅危惧種など温暖化問題など環境問題に興味を持ち、新聞、ニュースに敏感になること。ディベートを行いますので、問題意識を高めておいてください。講義には資料を配付します。	青木
	2	地球の歴史と生命の進化2			
	3	気候変動と地球の資源			
	4	ヒトの発生様式と分化1			
	5	ヒトの発生様式と分化2			
	6	ヒトの発生様式と分化3			
	7	iPS細胞と遺伝子ビジネスと生命倫理 (ディベート)			
	8	カイクのホルモンと発育様式 現在科学におけるカイクの活用と絹産業の発展性			
	9	猫の毛の色に関する遺伝学とオッドアイ			
	10	動物園の今日的意義と発展性 (ディベート)			
	11	動植物における数理生物学的特徴と意味 形づくりの分子メカニズム			
	12	日本をめぐる動物資源問題と解決策 (ディベート)			
	13	グループによるプレゼンテーション			
	14	グループによるプレゼンテーション			
15	「遺伝子組み換え」の技術動向とその是非、 「食品添加物」「健康食品」の問題点 (ディベート)				
評 価 方 法	ディベートの内容と関係する論述式の試験結果（80％）、授業時間内に課すプレゼンテーションの内容（10％）、出席状況（10％）によって評価します。 試験は期末試験期間中に実施				
教 科 書	医歯薬出版 ムーア人体発生学 瀬口春道 監訳 原著第8版				
参 考 書 参 考 文 献 等	新星出版社 田近英一著 大人のための図鑑 ビジュアル「地球・生物の大進化」 羊土社 上野直人, 野地澄晴著 「新 形づくりの分子メカニズム」 中公新書 深井 有著「気候変動とエネルギー問題」				
備 考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学V (自然科学と生活:化学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義		必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	石川良樹		そ の 他		
担当教員	石川良樹				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、自然科学を科学の一領域として位置づけた上で自然科学の一つである化学の成立と展開を学習し、化学的研究成果と現代の生活との関係を学習する。また、化学の研究手法に触れ、その方法の特徴と限界、学問としての化学の発展性と化学的研究成果を生活に活用する上での課題について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：生活に身近な現象について化学的に解説、考察し、医療従事者として必要な化学の基礎を理解する。 目標：i) 物理化学では化学結合を主体とする構造論と熱力学、酸化・還元と酸・塩基反応 ii) 無機化学では周期表と周期律、並びにそれを基にした元素各論 iii) 有機化学では有機化合物の構造・性質、及び有機化学反応 iv) 高分子化学では高分子の構造・種類・性状 v) 生命化学では生体を構成する物質（特に DNA、RNA、タンパク質など）を扱い、これらの基本的な事柄を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	序論：化学の成り立ち	講義	事前：教科書の関連各章を読むこと。  事後：授業で使用したプリント、メモを元に、ノートの作成を行うこと。	石川
	2	原子と分子			
	3	元素の性質と反応			
	4	酸と塩基			
	5	酸化と還元			
	6	化学反応とエネルギー			
	7	化学反応と速度論			
	8	有機化合物の性質と反応(1)有機化合物とは			
	9	有機化合物の性質と反応(2)鎖式炭化水素			
	10	有機化合物の性質と反応(3)酸素・窒素を含む化合物			
	11	有機化合物の性質と反応(4)カルボン酸とその誘導体			
	12	有機化合物の性質と反応(5)芳香族化合物			
	13	生命と化学反応(1)糖、核酸			
	14	生命と化学反応(2)タンパク質			
	15	高分子化合物の構造と性質			
評 価 方 法	期末試験の成績(100%)。ただし、試験で合格点(60点)に達しなかった場合、合否はレポート、出席状況を加味して判断する。				
教 科 書	系統看護講座 基礎分野 化学 第6版 著者：杉田良樹 医学書院				
参 考 書 参 考 文 献 等	特に定めない。				
備 考	特になし				

科目区分	環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学Ⅰ（自然科学の基盤：数学）	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A04006	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・（2年次）前期セメスター	単 位	2単位		
科目責任者	都丸 正	そ の 他			
担当教員	都丸 正				
授業の概要	人間は、自然現象を解明するための手段として自然科学を発展させてきた。また、自然科学的思考の基盤である数学は、自然科学研究を行う上で必要不可欠な学問である。この授業においては、数学の形成の過程とその歴史的・文化的背景、現代の自然科学文明の基礎となる数学的思考の特徴を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的： 大学数学の基礎を学び、数理的思考を磨く。</p> <p>学科目標： 高校数学の延長線上にある、線形代数と2変数の微分積分学を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	線形代数1（連立方程式と行列）	講義 ・ 演習	毎回、授業の始めに15分程度復習をする。事前学習は特に必要はないが、事後学習として授業中に適宜レポート等を指示する。	都丸
	2	線形代数2（行列と行列式）			
	3	線形代数3（行列と行列式）			
	4	線形代数4（一次変換）			
	5	線形代数5（固有値と対称行列の対角化）			
	6	線形代数6（固有値と対称行列の対角化）			
	7	線形代数7（因子分析入門）			
	8	1変数関数のテーラー展開1			
	9	1変数関数のテーラー展開2（応用）			
	10	偏微分1（接平面）			
	11	偏微分2（極値問題）			
	12	偏微分3（応用：回帰直線）			
	13	重積分1（立体の体積の求め方）			
	14	重積分2（立体の体積の求め方）			
15	重積分3（正規分布密度関数の期待値等の計算）				
評 価 方 法	講義中の質疑応答、レポートと授業中の問題解答を3割、期末テストの成績をおおむね7割として総合的に評価する。評価基準は学則に準ずる。ただし期末テストの受験は必須です。				
教 科 書	教養の数学 樋口・猪熊 森北出版				
参 考 書 参 考 文 献 等	特になし				
備 考	近年の看護を始めとする医療系でも、そのデータ処理等においては多変量データの取り扱いが重要となり、例えば因子分析等は常識になりつつある。こうした統計を学ぶ際の基礎となることを踏まえて、線形代数と微積分を半分ずつ講義します。 数学Ⅲを履修していることが望ましいが、必要な箇所は補足説明する。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学Ⅱ（自然現象の基盤：物理学）	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A04007	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大野由美子	そ の 他			
担当教員	大野由美子				
授業の概要	物理学とは、自然現象を支配する法則を発見し、その帰結を研究して体系化することにより、自然現象の理解に寄与するとともに応用への道を開く学問分野である。この授業においては、この世に存在する自然現象の派生と帰結が物理学的視点からどのように解明されてきたかを学習し、物理学の特徴とその人間社会との関連を理解する。				
学 科 目 的 標	看護学部・診療放射線学部問わず、医療人に最低限必要な物理学の理解と、その物理学がどのように成り立っていて、その特徴はどんなところにあるかを学習し、現在の科学技術や医療にどのように役立っているのかを理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	医療（診断、治療）に関わる物理、放射線の利用、暮らしの中の放射線	講義	各回ごとに 指定	大野
	2	力学1（運動に関する物理量—運動を表現するいろいろな量概念）			
	3	力学2（力学量の因果関係—運動を表現する基本的な関係）			
	4	力学3（運動方程式）			
	5	力学4（円運動）			
	6	力学5（単振動、波）			
	7	力学6（運動方程式）			
	8	力学7（仕事とエネルギー）			
	9	力学8（エネルギー保存則）			
	10	力学9（力積、運動量）			
	11	電磁気学1（電気に関する基本量—静電気に関わる基本概念）			
	12	電磁気学2（電流の基本法則—電流（直流）発生の仕組みと静電気の基本量との関係）			
	13	電磁気学3（電場、磁場）			
	14	電磁気学4（電場、磁場）			
	15	現代物理学の基礎（相対論、量子論）、総括			
評価方法	筆記試験 80%、出席確認を兼ねる小テストとレポート 20% ※15回の講義等（前半7回・後半7回の講義等）の後に実施する試験日時は別途指定する。				
教科書	プリントを配布				
参考書 参考文献等	高校時に使用した教科書など				
備 考	高校で物理未履修の場合、3年間で学んだものを簡単に半期で習得出来るはずはないので、高校3年間の補完目的に受講する者は相当な努力を行って欲しい。トピック的なものを求めて受講する者も、大学の物理学の初歩や今日の科学技術の元を理解できるよう、ある程度の自己学習は行うこと。毎回の小テストは必ず答え合わせを行っている。毎回の講義の復習のほか、役に立つ・知っている嬉しい項目などに設定しているので出席確認提出が終わってどうでもいい、という態度ではない方が望ましい。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	環境科学	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A04008	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石川良樹	そ の 他			
担当教員	石川良樹				
授業の概要	環境科学は、自然環境やその破壊を人間や生物との関わりにおいて捉える学問である。この授業においては、環境科学の対象となる自然環境に関わる諸問題、環境科学の起源と特徴を学習する。また、環境ホルモン問題など地球上の様々な環境問題の構造とこれを解決するための取り組みを理解し、人間の生活や健康と環境との関係を学ぶ。これらの学習を通して未来を志向し、人間の生活を取り巻く諸問題を解決する態度を理解する。				
学科目的 学科目標	<p>目的：人間の生活や健康と環境との関係を理解し、環境問題に自ら取り組む態度を身に付ける。</p> <p>目標：1 地球の成り立ちを理解する。 2 進化と環境の関係を理解する。 3 公害が身体に及ぼす作用を理解する。 4 感染症の危険性を理解する。 5 人間の営みと環境の関連を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	環境科学イントロダクション	講義	<p>普段から環境問題に興味を持ち、新聞、ニュースに敏感になること。</p> <p>学習課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の成り立ちを理解する。</li> <li>・進化と環境の関係を理解する。</li> <li>・公害が身体に及ぼす作用を理解する。</li> <li>・感染症の危険性を理解する。</li> <li>・人間の営みと環境の関連を理解する。</li> </ul>	石川
	2	宇宙 地球 生命			
	3	生物進化と分子進化			
	4	生物の歴史 絶滅と進化			
	5	人類の歴史と文明			
	6	産業と公害			
	7	化学物質の光と影			
	8	水と環境			
	9	花粉症の環境要因			
	10	新興感染症			
	11	再興感染症			
	12	食の安全			
	13	人口論			
	14	生命科学の発展と医療			
15	まとめ				
評価方法	毎回出題するレポート評価の平均				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	指定なし。毎回それぞれの項目についてプロジェクター、DVD等で講義を進める。				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否
授業科目名	スポーツ科学 I (スポーツ理論)		科目履修	可	単位互換 可
科目番号	A04009	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	鈴木昭彦	そ の 他			
担当教員	鈴木昭彦				
授業の概要	スポーツ科学とは、スポーツすなわち身体運動を科学的に解明し、スポーツとは何かを追求する学問である。この授業においては、様々なスポーツ理論の実生活への応用、運動のメカニズム、運動が身体に及ぼす影響をスポーツ科学の研究成果に基づき理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：人間は動物であり体を動かすことで身体を整え健康を保っている。身体のメカニズムを科学的に捉え、運動が身体に及ぼす影響を理解し、健康な生活を実現する態度を養う。</p> <p>目標：1. 解剖学的・生理学的知識に基づき、身体の仕組みを理解する。 2. 運動不足が身体に及ぼす影響を理解する。 3. 健康を求めて身体を動かす運動やスポーツの理解を深める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	スポーツの定義と身体活動の要素と影響	講義 ・ 演習	：生活習慣病について、また、予防方法について事前に調べておく。 ：一週間の生活記録を付け栄養・休養・運動から検証する。	鈴木
	2	身体のメカニズム (呼吸と循環)			
	3	身体のメカニズム (筋と骨格)			
	4	身体のメカニズム (筋収縮エネルギーと酸素)			
	5	身体のメカニズム (感覚と運動)			
	6	体力の概念・体力の構成要素			
	7	運動の意味を考える			
評価方法	試験 60%・レポート 30%・毎時間の講義内容カード 10%で総合評価します。				
教科書	大学生の健康・スポーツ科学 道和本院				
参考書 参考文献等	特になし				
備考	試験は全講義終了後、次の週に行う予定です。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否
授業科目名	スポーツ科学Ⅱ (体力づくり)		科目履修	否	単位互換
科目番号	A04010	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	実技		必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・(2年次) 前期・後期semester		単 位	1単位 30時間	
科目責任者	近藤照彦		そ の 他		
担当教員	近藤照彦				
授業の概要	この授業においては、身体発達や健康維持・増進の基礎となる体力について学習する。様々なトレーニングを体験し、体力、特に行動体力の中でも、最も必要とされる持久力・筋力・柔軟性に関しその保持・増進の方法について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。実技は、選択スポーツとする。健康指標として個人の健康カードに脈拍数、健康状態、選択スポーツ種目、健康度チェックを記入する。初回時 12 分間走から個人の全身持久力を評価する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後 学習(学習 課題)	担当
	1	講義概要の解説と履修選択抽選・調整	講義 ・ 演習	生活習慣病 等健康につ いて関心を もち知識習 得に努め る。 講義で体験 した各種ス ポーツを実 践する。 日常的な運 動習慣を身 につける。	近藤
	2	実技			
	3	12分間走			
	4	実技(選択)			
	5	実技(選択)			
	6	実技(選択)			
	7	実技(選択)			
	8	実技(選択)			
	9	実技(選択)			
	10	実技(選択)			
	11	実技(選択)			
	12	実技(選択)			
	13	実技(選択)			
	14	実技(選択)			
15	実技(選択)				
評 価 方 法	受講状況(70%)、健康カードへの記載状況(10%)、12分間走・態度・実技能力(20%)の総合評価とする。				
教 科 書	なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	なし				
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員は40名とする。</li> <li>・ 履修希望者が定員を超えたときは、抽選により履修者を決定する。</li> <li>・ スポーツのできる服装とシューズを準備する(トレーニングウェア、屋内用シューズ、屋外用シューズ)</li> <li>・ 私服は認めない。</li> <li>・ 授業態度等の不良学生は、単位を認めない。</li> </ul>				



科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否	
授業科目名	スポーツ科学Ⅲ (身体表現)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A04011	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	実技		必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester		単 位	1単位 30時間		
科目責任者	松本富子		そ の 他			
担当教員	松本富子					
授業の概要	この授業においては、世界的に普及し、様々な人々に楽しまれているダンスを通して、身体表現方法及びコミュニケーション技術を学ぶ。また、国際社会に適用する教養としてダンスの歴史、意義などを理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	ダンスによる身体表現によって、自己のからだを解放しノンバーバルなコミュニケーションを実現することの楽しさを体験するとともに、その意義と方法を学ぶ。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	オリエンテーション:授業概要解説(講義・実技)ならびに授業の進め方,諸準備に関する説明	実 習 と 一 部 講 義	【事前学習】 ・配付資料、ダンスのビデオ・書籍等により、身体表現文化に関する基礎知識を収集する。  【事後学習】 ・活動を振り返り成果を確認すると共に次への課題を持つ。 ・発表に向けた個別ならびにグループ別練習 ・学外でのダンス文化に関心を持ち、行う、見る、支える活動に参加してみる。	松本	
	2	講義 ダンスによる身体表現文化の多様性とその構造				
	3	実技 心とからだのリラクゼーション&コミュニケーション				
	4	講義と実技 身体のリズムとノンバーバルなコミュニケーション(1)				
	5	実技 身体のリズムとノンバーバルなコミュニケーション(2)				
	6	実技 身体のリズムとノンバーバルなコミュニケーション(3)				
	7	実技 身体のリズムとノンバーバルなコミュニケーション(4)				
	8	講義 日本のダンス文化と固有の身体技法				
	9	実技 地域に展開される日本のダンス(1)				
	10	実技 地域に展開される日本のダンス(2)				
	11	講義 現代にみる身体表現「ダンスモブ」				
	12	実技 ダンスモブを体験する(1)作品の創作				
	13	実技 ダンスモブを体験する(2)作品の創作				
	14	実技 ダンスモブを体験する(3)作品の創作				
15	創作作品の発表・まとめのレポート					
評 価 方 法	3分の2以上の出席を満たした者について、以下の評価を行う。 ① 毎時間後の振り返り (20%) ② 毎時間の実技および作品発表 (60%) ③ 講義レポート、まとめのレポート (20%)					
教 科 書	適宜紹介する					
参 考 書 参 考 文 献 等	適宜紹介する					
備 考	定員は30名とする。履修希望者が定員を超えたときは、抽選により履修者を決定する。					